

朴花居

<第29号>
2023年12月発行



川上澄生《夏の夜の夢》 1925(大正14)年頃 木版墨刷 紙 鹿沼市立川上澄生美術館蔵

川上澄生美術館 友の会だより

〒322-0031 栃木県鹿沼市睦町287-114

TEL 0289(02)8272 FAX 0289(02)8227

今、川上澄生美術館では特別企画展として「川上澄生と音楽」を開催し、川上澄生の音楽の素養が、いかに詩や作品に活かされているのかを紹介しています。(詳しくはぜひ展覧会をご覧ください)

《夏の夜の夢》も音楽にまつわる作品の一つ。夜、楽器のリズムに合わせて、陽気に踊る人々の姿が幻想的に描かれていますね。ちょっと現実離れた印象を受けますが、この作品は、シェイクスピアの同名の戯曲からヒントを得ていると思われるます。

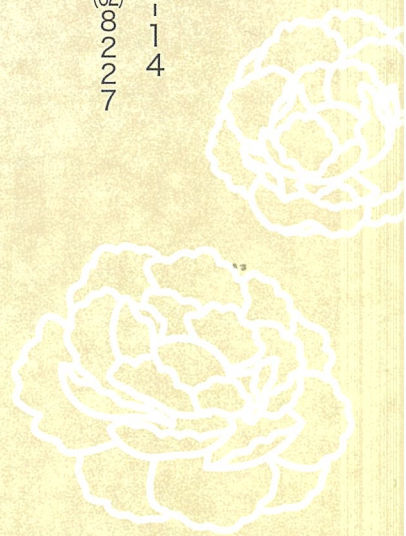
『夏の夜の夢』は、森に足を踏み入れた貴族や職人、森に住む妖精たちが繰り広げる物語です。ヨーロッパの絵画では以前から、この戯曲の男

女の恋愛の場面が多く取り上げられてきました。しかし、川上澄生は、あえて人間や妖精が音楽を楽しむ場面を切り取っていて、そこに独自の視点があるといえるでしょう。

木版画の技法としては、墨の濃淡を要所で調整し、特に背景の包み込むような彫りと黒のグラデーションは見事です。さらに人物たちの周りを流れるように彫り、彼らの動きのリズムを表現している点も見どころです。

ぜひ、皆さまも本物をご覧ください、画面から伝わる音楽のリズムをお楽しみください。

※川上澄生と音楽展は12月27日(水)まで開催



新しい
フェーズを
迎えて

変わる美術館

新しい館長、友の会会長を迎え、川上澄生美術館と友の会のこれからについて、学芸員、友の会メンバーを交え、多方面から意見を交換した座談会の様子です。

学芸員 白井 11月から友の会主催の展覧会「シードストーリーズ」を開催します。これは美術館の展示会場で作品を展示、友の会を通して販売していただ



「シードストーリーズ23_24」展(開催中)

くもので、館長も作家として出品されます。

館長 齋藤 若手作家主体のこの「シードストーリーズ」は、北海道から四国までの全国展開しております。A4サイズの内収まる小作品で、ペタランも若手も均一の特別価格で、気に入った作家をコレクションできるようなりました。

友の会 中山 他の開催場所は美術館ではないとの事ですが。

館長 一般のギャラリーで行っていただきます。公的美術館ではなかなか関与しにくいのが、作品と作家、そして鑑賞者を直接繋ぐという部分です。それを友の会が行っていただきます。

中山 所で残念なのは美術館、文化活動交流館、図書館などの施設が隣接しているにもかかわらず、それぞれが上手く繋がっていない事です。理想的には建物同士が回廊などで繋がってれば導線もつながるのではと思います。例えば魅力的なカフェやショップがそのどこかにあるだけでも、人の流れを生むことが出来るのでは？人々がちよつと時間があつたらあの辺りに



刷り実演(三浦麻梨乃氏)

行つてお茶を飲み、ついでに美術館にも寄つて帰りに本を借りて…なんて思えるような場所になると素敵ですよ。

館長 文化活動交流館はすごく良い空間だと思ふんですよ。文化ゾーンとして、文化活動交流館、美術館、図書館と様々な展覧会やイベントを、連携できるといいですね。

近年、美術館創立当初から支えて頂いた会員の方の退会などで、友の会会員が減少しております。新規に入会して頂くために、友の会会員特典のイベントや講演会、ワークショップなど魅力のある体験、企画を考えていかなければなりませんね。

友の会 中西 川上澄生の作品自体に

それほど興味がない方にも、芸術に知識がなくても、誰もが気軽にアートを味わえるようなイベントが企画できるといいですね。足を運びやすくして、川上澄生美術館ファンの裾野を拡大したいです。

友の会 関口 確かに美術館自体が一般市民には少し敷居が高いかもしれないですよ。

会長 そうなんです。その敷居を低くして誰にでもアートを鑑賞してもらいたいと考えて、私のギャラリーでは絵を見ていただくだけでなく、絵はちよつと…という人には庭の薔薇を見にきてもらうだけでも良いんじゃないかな。でも花を見に来た方は絵も見て行くしその反対もありますので、いろいろ工夫してみると多くの方に足を運んで頂けています。

館長 発信する方法も大切ですよ。最近は大正ロマン、昭和レトロというキーワードで川上澄生の作品だけでなく、美術館の雰囲気とか、鹿沼の街中に興味を持ち、訪れてくれるようですよ。市外の方に鹿沼市の評価が高いように思っていますね。

中山 集客の少ない一つの理由として、川上澄生美術館が単に美術館本来の形のみで考えられていることですかね。館長が仰るとおりレトロ感漂う建物の面白さや作品など、プラスαの何かを加えた切り口でやって頂くと集客アップに繋がるかもしれませんね。

館長 それに、せっかくこの友の会

の会報「朴花居」も良い内容なのに、手に取る人は限られてしまう。友の会独自のインスタグラムを立ち上げて、部分的にデジタル媒体に落とし込んでいくこともいいことなんじゃないですか？

中西 是非やりましょう。SNSでの発信は本当に重要ですから。SNSでなら紙媒体に比べて、即効性があり柔軟なので効果的にPRできますよね。

館長 それから、昨年度開催いたしました第26回木版画大賞では審査委員が一新し、新たな視点で作品だけを評価した結果、20代から80代と幅広い年代の作家が入選されました。どれも表現が深く見応えのある作品で、展覧会は大変好評を得ました。開催は2年に一回のビエンナーレ形式になりましたが、次回も木版画を制作している方々の良い発表の機会になるよう、運営方法も見直し改善していきます。応募が倍増するといいですね。

会長 木版画の作家は少なくなっていますか？

館長 木版画を大学で専攻する学生も少ない、若い方で木版画、版画自体を作る方が少なくなっていますね。デジタル表現を選択する方が増えています。その中でも木版画を選ぶという方々は、表現方法としてのこだわり、強い意志を持っていらっしやいますね。

開催中の企画展「川上澄生と音



みんなのもとへアートを届けます！（板荷小）

楽」は、澄生の音楽の素養が詩に変わり、それが版画へ展開していく過程を紹介しています。「音楽」をテーマとした企画は初めてですが、ご観覧頂いた方々からは評価を得ております。今回の館長プロデュース展は、また違った視点で木版画の「刷り」の技法から、澄生が行った「実験」を探って行こうと思います。子供達にも見やすい展示にするつもりです。

ありますね。

会長 子供がちよつとくらい騒ごうと、赤ちゃんが泣いても多めに見てもらうというような日があつていいですよ。

関口 若い方達は日曜日に子供を連れてどこに遊びに行こうかと思つてますから、その親子で楽しむ美術鑑賞の日などのワークショップは、喜んで参加すると思います。

会長 友の会企画のワークショップをやつた場合には、それで終わりではなく1階に展示してあげるといふのは可能ですか？

白井 宇都宮美術館はショップ付近の廊下に、ワークショップや出張講座の記録をパネルにして展示しています。そういう形なら可能だと思います。

館長 そのような展示は美術館ではなく、他のところの方が多くの人の目にとまるでしょう。そうすれば、こんなことやつているんだ、やってみようという宣伝にもなりますよね。

中山 美術館のショップはあのままですか？若い方に巡ってもらうには、ショップの商品を充実させて魅力的にしないことには惹きつけられないでしょう。

中西 美術館のショップやカフェは、それだけで訪れる動機づけになりますよね。他の美術館のショップもそうですが、オリジナルグッズではないけれど、デザイン性の高いものを多数取り揃えることで、美術館の魅力を高め集客に繋がっています。

館長 そうですね。鹿沼にも良い商品が



座談会メンバー

たくさんありますよね。木製のものとカクセサリーとかネット販売を個人でされている方も少なくないです。鹿沼産クラフト作品を少しでも置けると相乗効果で川上澄生の図録とかも売れるかなと。売り場がとて狭いので、どういふふう空間を使うかその空間づくりを考えないと。今新しく棚ができて書棚がリニューアルされたら、購入される方が増えています。品揃えも美術館としてセレクトして、アピールしていきたいです。

座談会は尽きることなく2時間及び、それぞれの想いが溢れたものとなりました。ここから「川上澄生美術館のこれから」が見えてきたように思います。友の会は美術館と今まで以上に連携して、より多くの皆様に愛される美術館を模索していきたいと思ひます。

「川上澄生と音楽展」
朗読会

鹿沼市制75周年記念、栃木県誕生150年記念特別企画展「川上澄生と音楽展」が開催されています。11月4日には「川上澄生の詩を楽しむ」として朗読家青木ひろこさんによる朗読会が開催されました。

原田学芸員と詩の朗読のコラボという、今回の展示の解説を織り込みながらの朗読会となりました。澄生の作品には詩を彫り込んだ作品が多く、詩の前に音楽があつたのではないかと、それは澄生が青学時代にコーラスグループに所属し学内の音楽会にとどまらず、芸術座や新国劇のバックコーラスとして活動していたこと、音楽に進みたかったが父に反対されて断念したことなどのいきさつがありました。

昭和38年68歳の澄生は新聞紙上に「成りそこないの記」というエッセイで「私はなりそこないものが二つある。一つは声楽家である」と書いて



ており、生涯、音楽への思いを続けていたことが分かります。その後澄生は「赤い鳥」に童謡詩作品を応募し、審査委員の北原白秋から高く評価されていました。

この朗読会では「赤い鳥」詩と音楽「近代風景」などに応募した澄生20代前半の詩を朗読していただきました。

まるで歌のような響きの楽しい童謡詩、澄生の詩人としての才能を再認識する機会となりました。

「初夏の風」のように詩が刷り込まれた作品の数々は、澄生作品の魅力でもあります。青木ひろこさんの朗読がまるで音楽を聴いているかのように心地よく流れ、贅沢なひと時となりました。



青木ひろこさん

10代から映画やTVドラマなどで活躍され、下北沢言語表現研究西澤ゼミに参加。平成18年より個人で夏目漱石、太宰治などの名作を題材に朗読の活動がされています。

近年では音楽や舞踏などとのコラボレーションという新たな取り組みもされています。

友の会ツアー

11月15日、5年ぶりに友の会ツアーを実施しました。

まだ少しコロナの不安がある中、会員のみ30名の募集でしたが、定員には満たず、少人数でゆったりバス旅行となりました。

今回の行先は茨城県笠間市です。バスの中で原田学芸員より詳しく解説をして頂いたあと、午前中は茨城県笠

美術館探訪

自然の中に住む
横須賀美術館

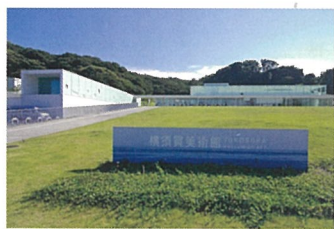
横須賀市の市制100周年を記念して2007年に開館された横須賀美術館は、県立観音崎公園の豊かな緑に囲まれ、眼前には東京湾を一望

できるという素晴らしい環境の中にあります。天井が高く丸窓を多用した開放的な館内には、横須賀・三浦半島にゆかりのある作家の作品を中心に近現代の版画・絵画・彫刻などが展示されています。

間陶芸美術館で「三の丸尚蔵館名品展」を鑑賞しました。展覧会では代々皇室に受け継がれてきた多くの陶磁器を見ることができ、さらにそれらの作品が皇室に献上されたいきさつも紹介してあつて、それぞれの作品がたどってきたストーリーも楽しむことができました。

その後、近くのホテルのレストランでおいしい食事をとり、午後は日動美術館の「藤田嗣治展」を満喫しました。藤田は日本やフランスを訪れた時は企画展として「New born 荒井良二」展を開催中で、趣向を凝らした楽しい展示会場や作品に心躍らされました。館内中央の階段を上り広々とした屋上広場に出ると東京湾の大パノラマが広がり、行き交う船を眺めていると時の経つのを忘れてしまいそうです。

またガラス張りのレストランでは、目の前に広がる芝生の庭やその先に東京湾を眺めながら食事やお茶を楽しむ事も出来ます。隣接されている谷内六郎館も含め、自然と一体化した開放的な美術館でゆっくり1日を過ごしてみるのは如何でしょうか。



で活躍した画家で、なかなかまとまった数の作品を見る機会がありません。今回は若い頃から晩年までの藤田の作品がテーマ別に飾られ、とても見ごたえがありました。

当日、笠間はちょうど菊祭りが開催されていて、町なか黄や白などのきれいな菊で彩られていました。また、日動美術館の庭園も紅葉で美しく、自然も楽しむことができましたツアーとなりました。

今回は比較的距離離だったため、4時半には帰着でき、



有意義な一日を過ごすことができました。

次回のツアーは来年春を予定しています。みなさま、ぜひご参加ください。

編集後記

魅力ある美術館とはどんな美術館でしょう。充実した作品の収集や展示は勿論ですが、そこに様々な付加価値が付くと魅力は倍増することでしょう。わくわくする様な川上澄生美術館を目指して、新たなフェーズへの一歩を踏み出す時が来たようです。

横須賀美術館

〒239-0813
神奈川県横須賀市鴨居4丁目1番地
Tel 046-845-1211
開館時間/10時～18時
休館日/毎月第1月曜日
(祝日は開館)